

農林水産商工常任委員会提出資料

(令和6年6月13日)

項 目	ページ
■ 日野川流域の渇水状況と取水制限の開始について 【農地・水保全課】……………	2
■ 第68回鳥取県植樹祭の開催結果について 【森林づくり推進課】……………	3
■ 令和5年度Jブルークレジットの公募結果及び応援企業認定セレモニーの開催 について 【漁業調整課】……………	4
■ 境漁港クロマグロ初水揚げについて 【境港水産事務所】……………	5

農 林 水 産 部

日野川流域の渇水状況と取水制限の開始について

令和6年6月13日
河川課
農地・水保全課
企業局工務課

5月下旬以降渇水状況となっている日野川流域において、6月8日（土）から取水制限が開始されたので、その状況を報告します。

1 渇水の状況及び取水制限の開始等

(1) 降水量と河川の流況・ダム貯水状況

日野川流域では、5月に入ってからまとまった雨が降らず、渇水状況が顕著となっている。5月の降水量は、鳥取県中・西部では平年の6割から8割程度で、向こう1か月降水予報（6月6日気象庁発表）は、ほぼ平年並みの見込みである。

なお、菅沢ダムの6月10日時点の利水貯水率は78.1%。

(2) 取水制限等の対応状況

6月7日（金）、下流の車尾堰（くずもぜき）の流量が取水制限開始基準の1 m³/sを下回ったことが確認されたため、6月8日（土）から一律10%の取水制限を開始することとし、6月10日（月）から全ての利水者が取水制限を実施中である。

また、日野川河川事務所では、下流への水の補給のため、車尾堰の流況を見ながら菅沢ダムからの放流量を一時的に増量して流況改善へ向けた対応を行っている。

基準：車尾堰の流量が1 m³/sを下回った場合は、一律10%から段階的（15%、20%）に取水制限を実施。

[H17] 制限率35%、37日間 [H19] 制限率20%、44日間 [H21] 制限率20%、32日間

[H25] 制限率5%、33日間 [R1] 制限率10%、8日間 [R4] 制限率20%、59日間

（※制限率は制限期間中の最高値）

(3) 「日野川流域水利用協議会」の開催状況

6月7日（金）に同協議会が開催され、当面まとまった降雨が期待できないことから、取水制限を開始することを確認した。

《出席者》国土交通省日野川河川事務所、農林水産省中国土地改良調査管理事務所、鳥取県、同企業局、米子市、境港市、日吉津村、南部町、伯耆町、日南町、日野町、江府町、各土地改良区（米川、箕蚊屋、西部、尾高井手）、王子製紙、中国電力（株）、日野川水系漁業協同組合、鳥取地方気象台

（出席者の意見）

[各土地改良区]・・・土日の対応が難しいので、月曜からの実施にしてほしい。

[日野川水系漁業協同組合]・・・瀬切れがないよう、ダムからの放流をお願いする。

[王子製紙、県企業局(工業用水)]・・・取水制限に協力する。

2 現状と今後の対応

6月7日（金）からの菅沢ダムの放流量の増量調整により、6月10日（月）現在、車尾堰の流量は1 m³/s以上が確保されている。なお、流況が安定するまで10%取水制限を当面継続する。

今後も流況をモニタリングしながら、状況に応じ関係者と対応を協議していく。

（参考）

日野川車尾堰付近の流況（写真：6月7日（金）国土交通省日野川河川事務所）



第68回鳥取県植樹祭の開催結果について

令和6年6月13日
森林づくり推進課

植樹活動を通じて、森林が日常生活にもたらす恩恵の大切さを発信するとともに、森林保全に対する県民意識を醸成し、森林・林業の振興による「SDGs」や「ゼロカーボン」への貢献を図ることを目的として、第68回鳥取県植樹祭を開催しました。

1 開催日：令和6年5月25日（土）午前10時30分から午後3時30分まで

2 テーマ：つなげよう この白砂青松 子へ孫へ

3 会場：米子市立和田小学校（米子市和田町）

4 主催：鳥取県・米子市・(公社)鳥取県緑化推進委員会

5 協力：鳥取県西部森林組合、和田町マツ守り隊

6 来場者：県民、みどりの少年団など 約500人

7 概要

(1) 式典

- オープニングアトラクション（米子がいな太鼓保存会）
- みどりの少年団入場行進、三旗掲揚
- 代表植樹
 - ・来賓代表17名が地元小学生の育てたクロマツを植栽
- 表彰
 - ・鳥取県美しいもりづくり功労者（個人2名、団体3団体）
 - ・植樹祭テーマ最優秀賞（知事）・優秀賞（緑推理事長）
- 森林・みどりへの想い発表
 - ・みどりの少年団（和田小学校6年生10名）
 - ・鳥取県西部森林組合技能職員

(2) 参加者植樹

- ・一般参加者約200人が国道431号沿いの森林にクロマツを植樹

(3) 森林・木にふれる催し

- ・コースター作り（釘や接着剤を使用しない伝統的な技術を活用して木製コースターを作成）
- ・バードコール作り（木の枝とボルトを組み合わせることで鳥の声に似た音を出す鳥笛を作成）

(4) その他

- ・緑化苗木配布（令和6年1月の大雪で甚大な被害を受けた大山町羽田井の種苗用ハウスの残存苗木等を配布）
- ・アトラクション（地元の和田荒神こども太鼓と淀江さんこ節保存会による上演）
- ・飲食物販売（唐揚げやカレーなど、米子市内の5店舗が出店）
- ・eスポーツ特別体験（米子南高校と境港総合技術高校のeスポーツ部員が「ねりんピックはばたけ鳥取2024」の正式種目であるeスポーツ競技を通じて同大会をPR）



平井知事挨拶



浜崎理事長挨拶



代表植樹



参加者植樹



美しいもりづくり功労者表彰



森林・みどりへの想い発表



森林・木にふれる催し



アトラクション

令和5年度Jブルークレジットの公募結果及び応援企業認定セレモニーの開催について

令和6年6月13日
漁業調整課

鳥取県の豊かな海を育む協議会（以下「協議会」という。）が、ジャパンプルーエコノミー技術研究組合（以下「JBE」という。）から認証を受けたJブルークレジットの公募結果が5月17日に公表されましたので、その概要とクレジット購入企業を応援企業に認定するセレモニーの開催について報告します。

1 令和5年度Jブルークレジット認証内容（令和6年2月27日認証）

- (1) プロジェクト名：萌える海藻！鳥取県の豊かな海を育む大作戦
※試行的に大山町御来屋地先を対象に申請
- (2) 申請者：鳥取県の豊かな海を育む協議会（設立：令和5年11月28日）
構成員：鳥取県漁業協同組合、田後漁業協同組合、赤碕町漁業協同組合、
公益財団法人鳥取県栽培漁業協会、鳥取県
- (3) アラメ藻場面積：1.5ha
- (4) 認証・発行クレジット量：CO2吸収量 4.2t/年
- (5) 販売価格：1口（0.6t）当たり9.9万円（税込）

2 クレジット購入企業・購入量（t-CO2）

購入企業	購入量	購入企業	購入量
①弓ヶ浜水産株式会社	0.6t	⑤株式会社井木組	0.6t
②三光株式会社	0.6t	⑥美保テクノス株式会社	0.6t
③やまこう建設株式会社	0.6t	⑦王子製紙株式会社 米子工場	0.6t
④株式会社タシマボーリング	0.6t	合計7社	4.2t

※ 表の順番はJブルークレジット認証団体であるJBEによる公表順。

3 収益の用途

クレジット販売収入は、藻場造成やウニ駆除等に役立て、更なる藻場の再生に繋げて行く。
[今年度の計画]

- ・アラメ種苗プレート40枚を（公財）鳥取県栽培漁業協会から購入し、10地区に配布予定。
- ・2地区（田後・赤碕）において、漁業者によるムラサキウニの駆除回数を増やす予定。

4 応援企業認定セレモニーの開催

クレジットを御購入いただいた企業や人との繋がりを大切にするため、県と協議会の共催による応援企業認定セレモニーを以下のとおり開催する。

名称：「萌える海藻！鳥取県の豊かな海を育む大作戦」応援企業認定セレモニー

日時：令和6年7月2日（火）午後1時30分から2時15分

場所：米子ワシントンホテルプラザ

内容：①開会②主催者挨拶（知事挨拶）③応援企業認定証の授与④記念写真撮影⑤鳥取県の豊かな海を育む協議会の取組紹介⑥応援企業との意見交換⑦閉会

※セレモニー終了後に現地視察（大山町御来屋漁港周辺のアラメ藻場）を実施。

境漁港クロマグロ初水揚げについて

令和6年6月13日
境港水産事務所

5月21日(火)に境漁港において、宮城県所属のまき網漁船がクロマグロの初水揚げを行いました。前年より4日早い水揚げで、これは記録が残る昭和57年以降最も早い初水揚げとなります。

	令和6年	令和5年
水揚げ日	5月21日(火)	5月25日(木)
水揚げ船団	第21たいよう丸(宮城県)	第8源福丸(長崎県)
水揚げ量	19.7トン	60.9トン
水揚げ本数	151本	534本
体重	67~218kg(平均131kg)	62~212kg(平均114kg)
単価(高値)	2,910円/kg(初セリにおける過去の最高値)	2,780円/kg

<初セリ式>

日時 5月21日(火)午前8時30分
(午前9時20分から入札)

場所 境漁港1号上屋

内容 ・境港天然本マグロPR推進協議会 島谷副会長挨拶
・境港水産事務所長手締め

<PR活動について>

○境港天然本マグロPR推進協議会によるPR活動

- ・5月22日(水)、関西本部とともに関西圏の百貨店(阪神梅田本店、あべのハルカス近鉄本店)にて、初水揚げPRイベントを実施し、試食等を行い盛況であった。
- ・6月16日(日)に第11回境港まぐろ感謝祭を開催予定。

日時：令和6年6月16日(日)午前9時~12時30分
メイン会場：境港水産物地方卸売市場2号上屋
内容：マグロ解体ショー、刺身・切り身・マグロ丼販売、
マグロ体重当てクイズ等

主催：境港天然本マグロPR推進協議会

- ・6月22日(土)、三越伊勢丹浦和店において首都圏向けPRイベントを開催予定。
- ・首都圏及び関西圏の百貨店へは、PR資材(のぼり旗、シール、ポスター)を提供し、各店舗でのPRに活用いただく予定。量販店向けには、POP等のPR資材をホームページからのダウンロード形式で提供。

○その他

- ・6月に境港市が市内12か所の保育園等で給食へのマグロの提供やDVD視聴等を行う食育事業「マグロ集会」を実施し、境港水産事務所も「語り部」として参加する。

<太平洋クロマグロ資源管理の取組>

- ・今年度の日本海における漁獲枠(13船団への漁船ごとの漁獲割当ての合計)は1,871トンである。(前年度：1,867トン)
- ・境港に水揚げする大中型まき網漁業者は、平成23年から全国に先駆けて大型魚(30kg以上)の漁獲量を制限するなど、率先して資源管理に取り組んでいる。
- ・平成27年からは、日本海で漁獲する大中型まき網における大型魚の漁獲上限を1,800トンとし、8月の操業自粛を開始した。
- ・平成30年からは、法律に基づく漁獲可能量(TAC)制度に移行し、令和4年からは日本海で操業する大中型まき網において、公的IQ(漁船毎漁獲割当てによる管理)が導入されている。



マグロ水揚げの様子(1号上屋前)



関西PRの様子(あべのハルカス近鉄本店)